3-864-987-**02**(2)

ポータブルミニディスク レコーダー

取扱説明書/Operating Instructions

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MZ-R55

©1998 by Sony Corporation

主な特長

本機は、ソニーが開発したミニディスクフォーマットを採用したポータブルミニディスクレコーダーです。

- **再生専用MDウォークマン並みの超小型ボディに、録音機能を凝縮**
  ポケットやバッグに入る携帯に便利なサイズ・軽さの、録音機能付きMDウォークマンです。
- **ガム型充電池１本で使用できる省電力設計**
- **録音しながら文字入力が出来る、「ながら入力機能」搭載**
  MDを録音中に、曲名やディスク名が入力できて便利です。
- **MD編集ができる新開発の９文字対応、光る液晶リモコン**
  簡単操作のスティックコントローラーリモコンで、曲名や、ディスク名を入力したり、曲順を変えるなどの編集操作が、簡単にできます。
- **約40秒の長時間音飛びガードメモリー搭載**
- **高音質の録音**
  光デジタル入力端子からの録音によりノイズやひずみの少ない高音質の音楽を楽しめます。
- **デジタルシンクロ録音**
  光デジタル出力があるデジタル機器とつないで録音するとき、再生機側の操作に合わせて、録音開始や一時停止を自動で行います。
- **サンプリングレートコンバーター内蔵**
  BSチューナーやDATなどのデジタル機器をつないで、デジタル信号のまま録音・編集することができます。
- **デジタルAGC搭載**
  デジタルならではの音のクオリティーを維持しながら、録音時のわずらわしいレベル設定を自動的に行います。
- **モノラルモードでの長時間録音**
  最大148分まで録音ができます。
- **デート機能**
  録音した日時を自動的に記録します。
- **タイトル表示機能**
  ディスク名や曲名を本体やリモコンの表示窓で見ることができます。

ご注意

- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- ポータブルミニディスクレコーダーの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償についてはご容赦ください。

MD WALKMANは、ソニー株式会社の商標です。

💡は知っていると便利な情報のマークです。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
（お問い合わせ先　（社）私的録音補償金管理協会　Tel.03-5353-0336）

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6〜8ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

1年に1度は、ACパワーアダプターや充電器のプラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターや充電器などが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

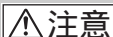
❶ 電源を切る
❷ ACパワーアダプターや充電器をコンセントから抜く
❸ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

目次

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**大けが**の原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に十分にご注意ください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ACパワーアダプターや充電器をコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

海外で使用しない

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

指定以外の充電器やACパワーアダプター、カーバッテリーコードなどを使わない

破裂や液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターや充電器をさわらない

感電の原因となることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるぐらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、MD、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

通電中のACパワーアダプターや充電器、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

本体やACパワーアダプター、充電器を布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
ニカド
(Ni-Cd)
ニッケル水素
(Ni-MH)
リチウムイオン
(Li-ion)

乾電池
アルカリ
マンガン

ボタン型電池
リチウムなど

⚠危険（この項目は充電式電池のみ適用となります）

- 指定された充電器以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- リチウムイオン電池は火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- 充電式電池に貼ってあるビニールをはがしたり、傷つけない。

⚠警告

- ボタン型電池は幼児の手の届かないところに置く。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 乾電池は充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

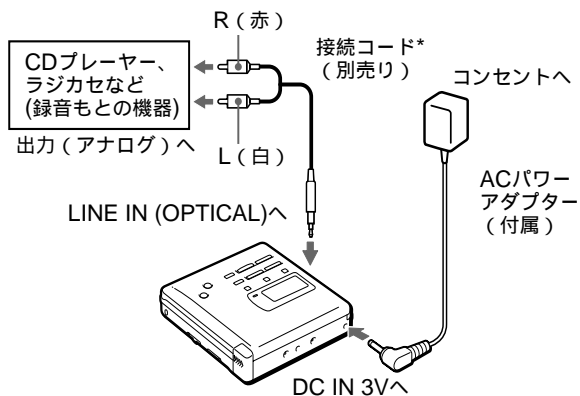
もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が体についたときは、水でよく洗い流してください。

お願い
使用済みニカド電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、ニカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

ここだけ読んでも使えます

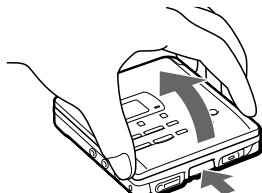
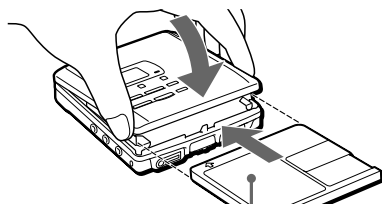
録音する

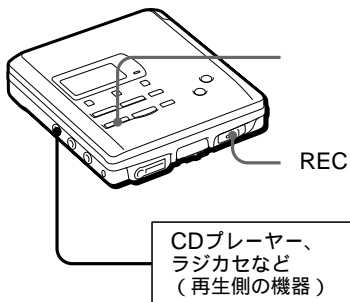
つないだ機器の出力端子から録音する音はアナログ信号で送られますが、ディスクにはデジタル方式で記録されます。また、録音はステレオ録音になります。
デジタル機器につないで録音するときは、「デジタル入力で録音する」（15ページ）をご覧ください。

1 つなぐ（しっかりとつないでください）

① **別売りの接続コード**RK-G129***などを使ってつなぐ。**
ポータブルCDプレーヤーなどのステレオミニジャックに接続するときは、別売りの接続コードRK-G136*をお使いください。

② AC**パワーアダプター（付属）をつなぐ。**
コンセントへつなぎます。

* 接続コードには抵抗の入っていないものをお使いください。

2 録音用ミニディスクを入れる

① OPEN**ボタンを押して、手でふたを開ける。**

② **ディスクのラベル面を上にして奥まで押し入れ、ふたを閉める。**

3 録音する

① REC**スイッチを右にずらす。**
「REC」表示が点灯し、録音が始まります。

② **録音したい**CD**やテープを再生する。**

止めるには、■ボタンを押す。

ご注意

「Data Save」「Toc Edit」表示の点滅中は、録音した情報（曲の開始・終了位置など）をディスクに記憶しています。衝撃を与えたり、電源を抜いたりしないでください。

こんなときは	操作
一時停止する	❚❚ を押す。[1]もう一度押すと解除されます。
録音済み部分の後ろに新しい録音をする	END SEARCHを押してからRECスイッチを右にずらす。
録音した内容の途中から新しく録音する	► 、►►❘ または ❘◄◄ を押して録音を始めたい位置で■を押す。次にRECスイッチを右にずらす。
ディスクを取り出す	■ を押してから、本体のOPENボタンを押してふたを開ける。[2]

[1] 一時停止したところで曲番が1つ増え、そこから次の曲として記録されます。

[2] ふたを開けると、次の録音はディスクの最初から始まります。

録音が始められないときは

- ホールド（誤動作防止状態）になっていませんか（23ページ）。
- ディスクの誤消去防止つまみが開いていませんか（44ページ）。
- 再生専用のミニディスクは録音できません。

ご注意

動作中に電池をはずしたり、ACパワーアダプター電源を切ったり、電池が消耗したときは、次に電源を入れるまでふたは開きません。

💡

- 録音される音の大きさは自動的に調節されます。
- 録音中に音を聞くことができます。
  ∩／REMOTEジャックにリモコン付きヘッドホン（付属）をつなぎます。聞こえる音の大きさはVOLUME＋/－ボタンで調節できます。ただし、録音される音の大きさは影響されません。

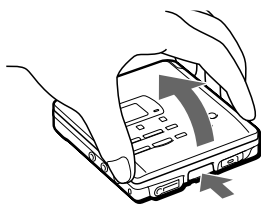
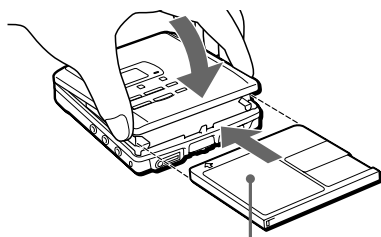
ここだけ読んでも使えます

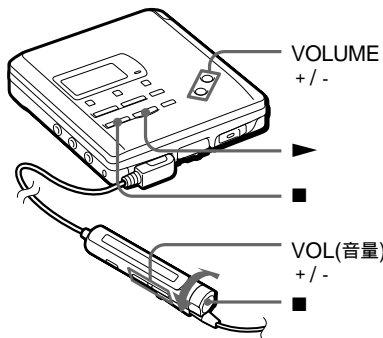
再生する

充電式電池、乾電池でも使えます。「電源について」(31ページ) をご覧ください。

1 つなぐ (しっかりとつないでください)

② **リモコン付きヘッドホン(付属)をつなぐ**
🎧/REMOTEジャックへつなぎます。

2 ミニディスクを入れる

① OPEN**ボタンを押して、手でふたを開ける。**

② **ディスクのラベル面を上にして奥まで押し入れ、ふたを閉める。**

3 聞く

① **►を押す。(リモコンでは回転つまみを►•►►I側に回す)。**
リモコンで操作すると「ピ」と確認音がします。

② VOLUME (**リモコンでは**VOL)+/−**を押して音量を調節する。**
表示窓で音量を確認できます。

止めるには、■ボタンを押す。
リモコンで操作すると「ピー」と確認音がします。

こんなときは	操作（リモコンの確認音）
一時停止する	II を押す。（ピ・ピ・ピ）　もう一度押すと解除されます。
今聞いている曲を頭出しする	I◄◄ を短く押す。 リモコンでは回転つまみをI◄◄側に回す。（ピピピ）
次の曲を頭出しする	►►I を短く押す。 リモコンでは回転つまみを►•►►I側に回す。（ピピ）
再生しながら早戻しする[1]	I◄◄ を押したままにする。 リモコンでは回転つまみをI◄◄側に回したままにする。
再生しながら早送りする[1]	►►I を押したままにする。 リモコンでは回転つまみを►•►►I側に回したままにする。
ディスクを取り出す	■を押してから、本体のOPENボタンを押してふたを開ける。[2]

[1] 一時停止（II）してI◄◄または►►Iを押したままにする(リモコンでは回転つまみを回したままにする)と、再生音を聞かずに高速で早送りや早戻しができます。

[2] ふたを開けると、次の再生はディスクの最初から始まります。

再生が始められないときは
ホールド（誤操作防止状態）になっていませんか（23ページ）。

別売りのヘッドホンを使う場合は
ステレオミニプラグのものをお使いください。アラカルトヘッドホン(マイクロプラグ)は使えません。

録音された方法により、ステレオ再生／モノラル再生が自動的に切り換わります。

ご注意

- ジョギング中など、連続的な振動が加わる状況で使用すると、再生中に音飛びすることがあります。
- 動作中に電池をはずしたり、ACパワーアダプター電源を切ったり、電池が消耗したときは、次に電源を入れるまでふたが開かないことがあります。

録音もとの機器との2種類の接続のしかた

（デジタル入力とアナログ入力）

本機をCDプレーヤーやラジカセなど録音もとの機器とつなぐには、光デジタル入力を使う接続とアナログ入力（LINE）を使う接続の2つの方法があります。
それぞれの録音のしかたは、光デジタル入力を使うときは「デジタル入力で録音する」（15ページ）、アナログ入力（LINE）を使うときは「録音する」（10ページ）をご覧ください。

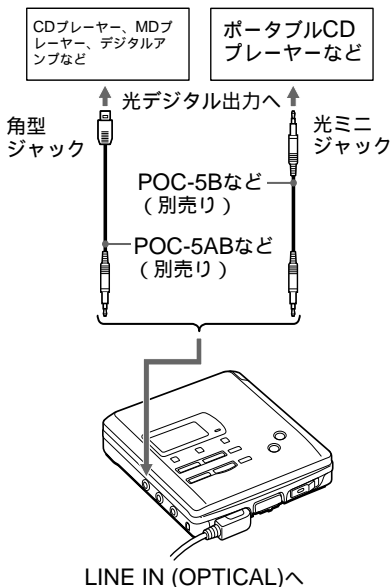
デジタル入力とアナログ入力の比較

入力の種類 相違点		光デジタル入力	アナログ入力（LINE）
接続できる機器		光デジタル出力ジャックのある機器	出力（LINE OUT）ジャックのある機器
使用するコード		光デジタルケーブル（角形プラグまたはミニプラグ）	接続コード（ピンプラグまたはステレオミニプラグ）
録音もとから送られる信号		デジタル信号	アナログ信号 CDなどデジタル方式のものを録音もととしても、本機にはアナログ信号として送られる。
録音の結果	マーク（曲番）	• 録音もとと同じ場所に自動的につく。 • 録音を一時停止したところで自動的につく。 不要なマークがついた場合、録音後に消してください（「頭出しマーク(曲番)を消す」25ページ）。	• 2秒以上の無音や小さな音が続いた場所につく。 • 録音を一時停止したところで自動的につく。 不要なマークがついた場合、録音後に消してください（「頭出しマーク(曲番)を消す」25ページ）。
	録音される音の大きさ	録音もとと同じ	自動調節される。 手動でも調節できます（「手動で録音レベルを調節する」18ページ）。

ご注意

次のような場合、録音もとと同じ場所に曲番が記録されないことがあります。
- 一部のCDプレーヤーやマルチディスクプレーヤーから、デジタル入力で録音する場合
- CDやMDソフトをプログラム演奏などにしてデジタル入力で録音する場合 (このような場合には、録音もとを通常の再生状態にしてミニディスクに録音してください。)
- BS、CS放送の番組をデジタル入力で録音する場合

デジタル入力で録音する（光デジタルケーブルが必要）

本機はサンプリングレートコンバーター内蔵のため、光デジタル出力のあるDATデッキやBSチューナーなど、サンプリング周波数の違うデジタル機器と光デジタルケーブルでつなぐとデジタル録音できます。

本機のLINE IN (OPTICAL)ジャックはデジタル・アナログ両用です

接続されるケーブルの種類により、光デジタル入力またはアナログ入力（LINE IN）に自動的に切り換わります。

ご注意

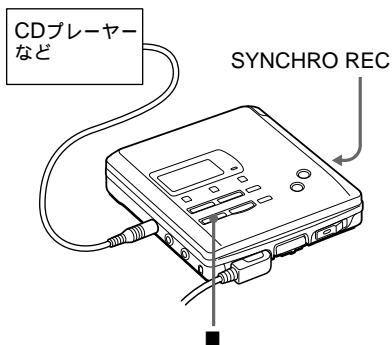
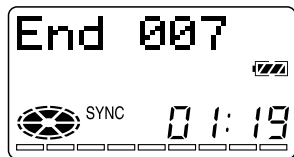
- 光（オプティカル）タイプ以外のデジタル出力には接続できません。
- ポータブルCDプレーヤーから録音するときは
  - ACパワーアダプター電源でないと、光出力ができないポータブルCDプレーヤーもあります。
  - ポータブルCDプレーヤーにACパワーアダプターをつなぎ、家庭用電源でお使いください。
  - 音飛びガード機能(ESPなど)は「切」にしてください。

録音用ミニディスクを入れ、録音を始める

録音の操作は「録音する」（10ページ）を参照してください。

ポータブルCDプレーヤーから録音するときは、CDプレーヤーを一時停止にしてから録音の操作をしてください。

再生側に合わせて録音を始める／止める（シンクロ録音）

光デジタルケーブルを使って接続したCDプレーヤーなどのデジタル機器から本機へデジタル録音するときに、録音もとと本機のそれぞれを操作する手間を省き、簡単に録音できます。

1 **SYNCHRO RECを「ON」にする。**

「SYNC」が表示されます。

2 **RECスイッチを右にずらし、録音を始める。**

録音一時停止になります。

3 **録音もとの機器の再生を始める。**

再生側の音が出ると、自動的に本機で録音が始まります。

録音をやめるには

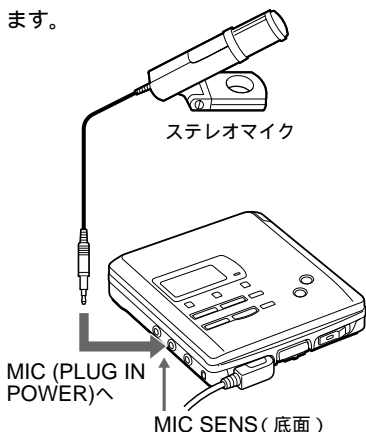
本機の■ボタンを押します。

- シンクロ録音中は、手動で一時停止することはできません。
- シンクロ録音中に録音もとで3秒以上の無音が続くと、本機は自動的に録音一時停止になります。再び音を検知すると、シンクロ録音に戻ります。録音一時停止状態が5分以上続くと、自動的に録音が止まります。

ご注意

- 手順2の後では、SYNCHRO RECスイッチを切り換えないでください。正しく録音されないことがあります。
- モノラル録音するときは、「長時間録音する」（17ページ）の手順1と2を行ってからシンクロ録音を行ってください。
- シンクロ録音中に録音もとで無音状態が続いても、録音もとのノイズレベルが原因で、自動的に録音一時停止にならない場合があります。

マイクで録音する

本体に別売りのステレオマイクECM-717、ECM-MS907、ECM-MS957などをつないで録音します。
入力は自動的にマイク入力に切り換わります。

1 **MIC SENSを切り換える。**
通常は「HIGH」側に合わせます。
ライブ録音など大音量を録音するときは、「LOW」側に合わせてください。

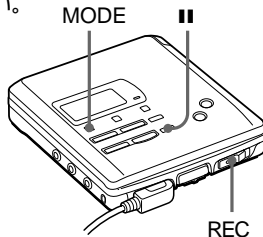
2 **録音用ミニディスクを入れ、録音を始める。**
RECスイッチの中央のボタンを押しながら右にずらします。その他の操作は「録音する」（10ページ）をご覧ください。

ご注意

- 光デジタルケーブルがLINE IN (OPTICAL)ジャックにつながっていると、マイク入力になりません。光デジタル入力、マイク入力、アナログ入力の順に優先して自動的に選択します。
- 本体の動作音を収音することがあります。そのときは、マイクを本体から遠ざけて録音してください。

長時間録音する

（モノラル録音）

一枚のディスクに通常の録音の倍の時間録音ができます。ただし音の臨場感は損なわれますので、目的に応じて選んでください。

1 **IIボタンを押しながらRECスイッチを右にずらし、録音一時停止にする。**

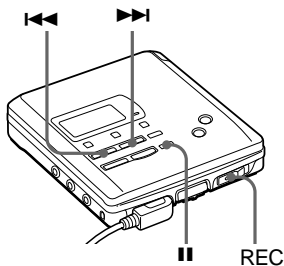
2 **MODEボタンを押し、モノラル録音にする。**
表示窓に「Mono REC」が表示されます。ステレオ録音に戻すには、もう一度MODEボタンを押します。

3 **IIボタンを押して録音を始める。**

4 **録音する音を出す。**

- ■ボタンを押して録音を止めると、次の録音からはステレオ録音に戻ります。
- ステレオで送られる音をモノラルで録音すると、左右のチャンネルの音がミックスして録音されます。
- シンクロ録音を「OFF」にしてから操作を始めてください。「ON」になっているとモノラル録音できません。
- 本機でモノラル録音した内容は、他のモノラル再生に対応していない機器では再生できません。
- デジタル入力で録音中の音は、ヘッドホン端子、LINE OUTジャックからステレオ音声で出力されます。

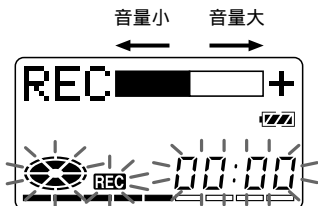
手動で録音レベルを調節する（マニュアル録音）

アナログ入力から録音するときは、録音レベルは最適な値になるように自動的に調整されますが、必要に応じて手動で調整できます。

1 ❚❚ボタンを押しながら、2秒間RECスイッチを右にずらしたままにする。

録音一時停止になり、「ManualREC」が表示されます。
自動調節に戻すには、一時停止の状態でもう一度2秒間RECスイッチを右にずらしたままにします。

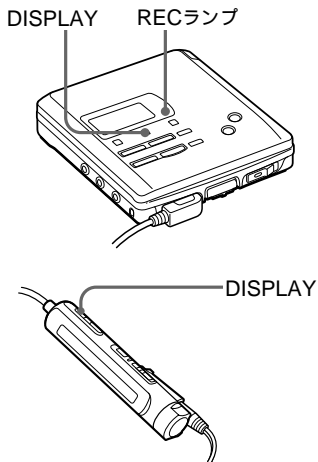
2 録音したい音を出す。

3 表示窓を見ながら⏭（＋）または⏮（－）を押して録音レベルを調節する。

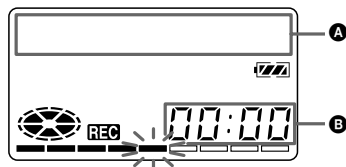
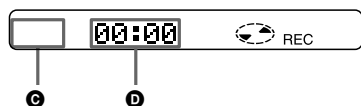
録音レベルは、一番大きな音が入ったときに、－12dBのバーが点灯するように調節します。

4 ❚❚ボタンを押して録音を始める。

- ■ボタンを押して録音を止めると、次の録音からは自動レベル調節に戻ります。
- 録音を始めると録音レベルは調節できなくなります。必ず手順4の前に行ってください。
- マイクで録音するときは、必要に応じてマイク感度を切り換えてください。(17ページ)

残り時間や録音位置を調べる

録音または停止中、表示窓で残り時間や曲番などの情報を確認できます。

1 **DISPLAYボタンを押す。**

押すたびに次のように変わります。

本体の表示窓

リモコンの表示窓

録音中

A	B	C	D
曲番	経過時間	曲番	経過時間
曲番	録音できる残り時間	曲番	録音できる残り時間
年月日[1)]	現在時刻[1)]	——	現在時刻[1)]

1)時計が合わせてあるときのみ。

停止中

A	B	C	D
曲番	経過時間	曲番	経過時間
曲名[1)]	録音できる残り時間	曲番	曲名[1)]
ディスク名[1)]	全残り時間	全曲数	ディスク名[1)]
年月日[2)]	現在時刻[2)]	——	現在時刻[2)]

1)文字情報が記録されているときのみ。
2)時計が合わせてあるときのみ。

録音状態を確認する

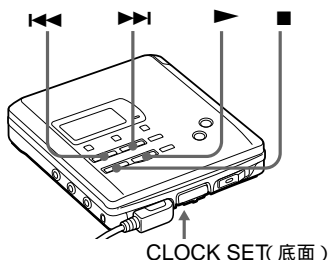
RECランプが点灯または点滅して、録音の状態をお知らせします。

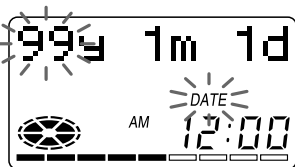
録音の状態	表示
録音中	点灯 マイク録音中は音の強弱に合わせて点滅(ボイスミラー)
録音一時停止	点滅
録音中ディスクが残り3分以下のとき	ゆっくり点滅
頭出しマーク(曲番)が追加されたとき	一瞬 消灯

ちょっと一言

再生中の表示については、22ページの「残り時間や再生位置を調べる」をご覧ください。

録音日時を記録する
(時計合わせ)

時計を合わせておくと、録音の際に録音日時が自動で記録されます。

1 電源をつなぐ。
付属のACパワーアダプターをつなぎます。

2 CLOCK SETボタンを押す。
シャープペンの先など細いもので押してください。西暦年の数字が点滅します。

3 ⏮または⏭ボタンを押して年を合わせる。
ボタンを押し続けると速く進みます。

4 ►ボタンを押して確定する。
月の数字が点滅します。

5 手順3、4をくりかえして月、日、時、分を合わせる。
分を合わせて►ボタンを押すと、時計が0秒からスタートします。

途中で間違えたときは

■ボタンを押し、もう一度手順2からやり直してください。変更する必要のない数字は►ボタンを押して先に進めてください。

現在の日時を表示するには

本機が動作していないときまたは録音中に、日時を表示するまでDISPLAYボタンをくり返し押します。

時計を24時間表示に変えるには

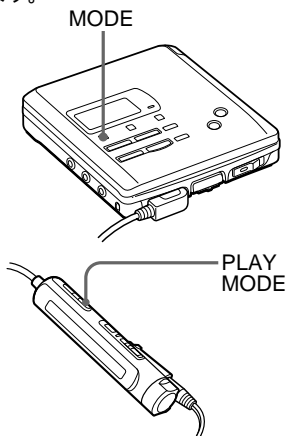
時計合わせ中にDISPLAYボタンを押します。もう一度押すと12時間表示に戻ります。

本体内蔵の時計用電源を充電してください

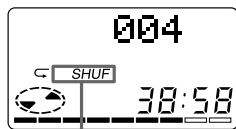
初めてお使いになるときや、長い間お使いにならなかったときは、本体内蔵の時計用電源を充電してください。ACパワーアダプターを約2時間コンセントにつないだままにして充電します(その間も本機をお使いになれます)。その後は、コンセントや充電式電池、乾電池のいずれかの電源がつないであれば、自動的に充電されるのであらためて充電する必要はありません。電源がなくても、時計用電源は約１か月間持続します。

くりかえし聞く

（リピート再生）

ディスク全曲のリピート、1曲のリピート、シャッフルリピートの3通りの方法があります。

1 再生中にMODE(リモコンではPLAY MODE)ボタンを押す。

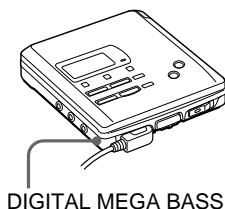
押すたびに次のように変わります。

例：本体の表示窓

再生状態表示

表示	再生状態
–	通常の再生
⮎	ディスク全曲をくりかえし再生
⮎ 1	再生中の曲をくりかえし再生
⮎ SHUF	全曲を順不同に並べかえて再生し、さらにくりかえし並べかえて再生

低音を強調する

（デジタルメガベース）

低音域が強調された迫力のある再生が楽しめます。この機能は、本体に接続されたヘッドホンに対してのみ働きます。

1 DIGITAL MEGA BASSボタンを押す。

押すたびに次のように変わります。

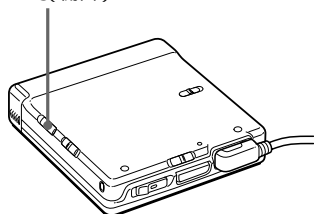
表示	再生状態
–	通常の再生
BASS▭	メガベース（弱）
BASS▭▭	メガベース（強）

ご注意

- メガベースを使っているときに音量を上げすぎると、音が割れたり、ひずんだりすることがあります。その場合は音量を下げてください。
- 本体のLINE OUTジャックに接続コードがつながれていると、メガベースは働きません。
- 録音中にメガベースを切り換えても、録音される音には影響はありません。

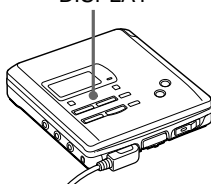
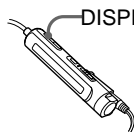
音もれを抑える

（音量リミット-AVLS）

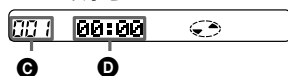
音量の上げすぎによる音もれや、耳への圧迫感、周囲の音が聞こえないことへの危険を少なくし、より快適な音量で聞くことができます。

1 AVLS**スイッチを「**LIMIT**」にする。**

音量を一定のレベル以上に上げようとすると、表示窓に「AVLS」が表示され、それ以上音量が上がらなくなります。

残り時間や再生位置を調べる

再生中に、表示窓で曲名・ディスク名などの情報を確認できます。

1 DISPLAY**ボタンを押す。**

押すたびに次のように変わります。

リモコンの表示窓

A	B	C	D
曲番	経過時間	曲番	経過時間
曲名[1]	その曲の残り時間	曲番	曲名[1]
ディスク名[1]	全残り時間[1]	全曲数	ディスク名[1]
録音した年月日[2]	録音した時刻[2]	——	録音した時刻[2]

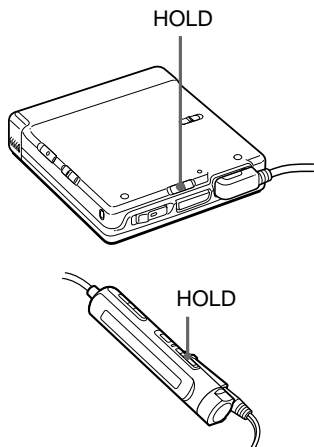
1) 文字情報が記録されているときのみ。

2) 時計が合わせてあるときのみ。

録音または停止中の表示については、19ページの「残り時間や録音位置を調べる」をご覧ください。

誤操作を防ぐ

（ホールド機能）

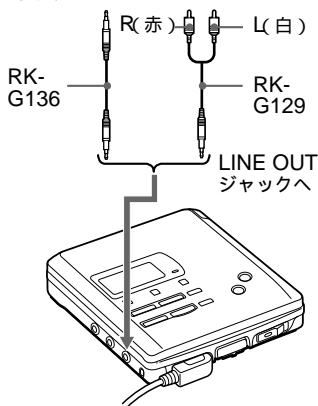
カバンに入れて使うときなどに、誤ってボタンが押されて動作するのを防ぎます。

1 **HOLDスイッチを━▶方向にずらす。**

本体のHOLDスイッチは本体の操作ボタンが、リモコンのHOLDスイッチはリモコンの操作ボタンが働かなくなります。逆方向にずらすと、解除されます。

お手持ちのシステムで聞く

本機の再生音を、他のオーディオ機器で聞いたり録音したりすることができます。

別売りの接続コードRK-G129またはRK-G136をLINE OUTジャックにつなぎます。出力はアナログです。本機はデジタル方式で再生しますが、接続する機器にはアナログ信号で送られます。

ポータブルDATなど
ステレオ機器、ラジカセなど
ステレオミニジャック
入力(LINE IN)へ
ピンジャック
R（赤）
L（白）
RK-G136
RK-G129
LINE OUTジャックへ

ご注意

LINE OUTジャックに接続コードをつなぐと、メガベースは働きません。メガベースを働かせていても、自動的に解除されます。

編集する前に

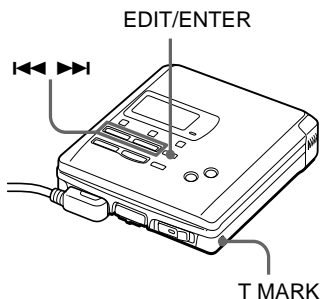
ミニディスクに頭出しマーク（曲番）をつけたり、曲名やディスク名をつけたりすることができます。ただし、再生専用ミニディスクの編集はできません。次の点にご注意ください。

ご注意

- 「Toc Edit」表示の点滅中は、衝撃を与えたり電源を抜いたりしないでください。
- 誤消去防止つまみが開いているディスクでは、編集ができません。つまみをもとに戻してください。

曲を消す

1曲を消す

一度消した曲は元に戻すことができません。消す前に、曲の内容をよく確認してください。

1 **消したい曲の再生中に、本体のEDIT/ENTERボタンを押す。**
「♫ : Name」が点滅し、1曲リピート再生になります。

2 **⏮または⏭ボタンを繰り返し押して、「♫ : Erase」を点滅させる。**

3 **EDIT/ENTERボタンをもう一度押す。**
表示窓に「ERASE OK?」と「Push ENTER」が交互に表示されます。
消すのを中止するときは、■ボタンまたはT MARKボタンを押します。

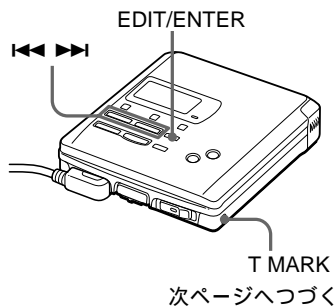
4 **表示窓で曲番を確認し、もう一度EDIT/ENTERボタンを押す。**
曲が消去され、次の曲の再生になります。消した曲より後の曲番は1つずつくり上がります。

曲の一部分を消すには

無音部分など不要な部分だけを消したいときは、不要な部分の始まりと終わりに頭出しマークをつけて（25ページ）、その部分を消してください。

全曲を消す

ディスク上の全ての曲を消します。
一度消したディスクは元に戻すことができません。必ずディスクの内容を確認しておいてください。

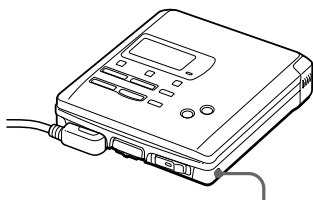
次ページへつづく

1 **停止中に、本体のEDIT/ENTERボタンを押す。**
「⊖ : Name」が点滅します。

2 **⏮または⏭ボタンを繰り返し押して、「⊖ : Erase」を点滅させる。**

3 **EDIT/ENTERボタンをもう一度押す。**
表示窓に「All Erase?」と「Push ENTER」が交互に表示されます。
消すのを中止するときは、■ボタンまたはT MARKボタンを押します。

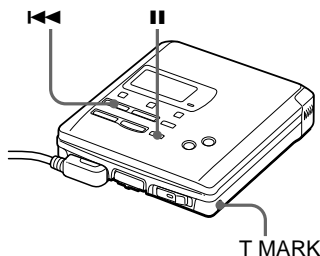
4 **EDIT/ENTERボタンをもう一度押す。**
「Toc Edit」表示が点滅し、全曲が消去されます。消去が終わると「BLANK DISC」と表示されます。

頭出しマーク(曲番)をつける

曲の途中に頭出しマークをつけて、そこから後ろを次の曲にすることができます。曲番は次のようになります。

1 **再生中または再生一時停止中に、マークをつけたい位置でT MARKボタンを押す。**
「MARK ON」が表示され、曲番が１つ増えます。そこから次の曲として記録されます。

録音中にマークをつけることもできます
録音(シンクロ録音を除く)中にT MARKボタンを押してください。また、リモコンのTRACK MARKボタンを使うこともできます。ただし、リモコンは録音時のみです。

頭出しマーク(曲番)を消す

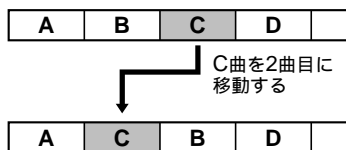
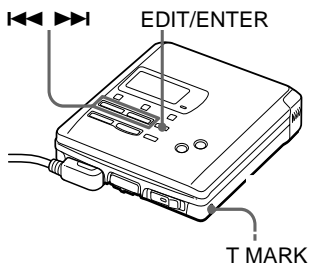
アナログ入力やマイク入力で録音したときは、静かな音が続く部分などに不要な頭出しマークがつくことがあります。その場合は、頭出しマークを消すと、前後の曲を１つの曲にまとめることができます。曲番は次のようになります。

1 **曲番を消したい曲を再生し、❚❚ボタンを押して再生一時停止にする。**

2 **⏮ボタンを短くチョンと押して、曲の先頭（00:00）にする。**
たとえば、２曲目と３曲目をつなげたいときは、３曲目の先頭にします。

3 **T MARKボタンを押す。**
「MARK OFF」が表示され、指定した曲が前の曲につながります。

録音日時や曲名は、つないだ2曲の1曲目のものになります。

曲順を変える（ムーブ）

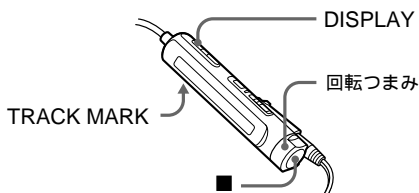
曲を移動して、曲順を変更できます。
例:C曲を2曲目に移動するとき

本体で操作する

1 **移動したい曲の再生中に、EDIT/ENTERボタンを押す。**
「♫ : Name」が点滅し、1曲リピート再生になります。

2 **⏮または⏭ボタンを繰り返し押して、「♫ : Move」を点滅させる。**

3 **EDIT/ENTERボタンをもう一度押す。**
上記の例では表示窓に「MV003 → 003」と表示されます。

4 **⏮または⏭ボタンを繰り返し押して、移動先の曲番を指定する。**
上記の例では表示窓に「MV003 → 002」と表示されます。
途中で中止するときは■ボタンまたはT MARKボタンを押します。

5 **EDIT/ENTERボタンを押す。**
指定した曲の前に移動したい曲が移ります。

リモコンで操作する

1 移動したい曲の再生中に、DISPLAYボタンを2秒以上押したままにする。

「♫ : Name」が点滅し、1曲リピート再生になります。

2 回転つまみを回して、表示窓に「♫ : Move」を表示させる。

3 ■ボタンを押す。

上記の例では表示窓に「003 → 003」と表示されます。

4 回転つまみを回して、移動先の曲番を指定する。

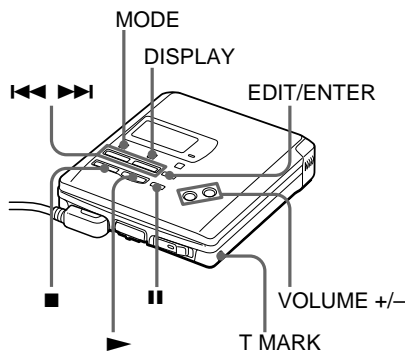
上記の例では表示窓に「003 → 002」と表示されます。
途中で中止するときはTRACK MARKボタンを押します。

5 ■ボタンを押す。

指定した曲の前に移動したい曲が移ります。

曲名やディスク名をつける

再生中は曲名、停止中はディスク名、録音中は曲名・ディスク名をつけることができます。曲名やディスク名は、それぞれ200文字までつけることができます。
1枚のディスクには、再生・停止中に英数字／記号で約1700文字、カナ文字のみで約800文字入力できます。
また、1回の録音中では、英数字/記号で約500文字、カナ文字のみで約200文字まで入力できます。

本体で操作する

停止中にディスク名を入力する

1 ディスクを入れる。

すでに入っているディスクのディスク名をつけるときは、■ボタンを押して停止します。

2 **EDIT/ENTERボタンを押す。**
「⊖ : Name」が点滅します。

3 **EDIT/ENTERボタンをもう一度押す。**

4 **⏮ または⏭ボタンを繰り返し押して文字を選び、▶ボタンを押して確定する。**
確定すると、選んだ文字が点灯に変わり、次の文字位置でカーソルが点滅します。

ボタン	機能
⏸	カナ→アルファベット→記号と数字の順に切り替わる。
VOLUME ＋／−	文字カーソルを左右に移動する。
⏮/⏭	アルファベットや記号・数字入力時は⏭を押すと、1文字ずつ変わる。⏮を押すと戻る。カタカナ入力時に⏮/⏭を2秒以上押すと「ア」↔「カ」↔「サ」↔「タ」のように文字が選べる。
DISPLAY	記入位置に空白を挿入し、一文字分の文字を追加できる。
MODE	記入位置の文字を削除し、以降の文字を一文字ずつつめる。
■	タイトルをつけるのを中止する。
T MARK	タイトルをつけるのを中止する。

5 **手順4を繰り返して名前をつける。**

6 **EDIT/ENTERボタンを押す。**
曲名またはディスク名がつきます。

再生中に曲名を入力する

1 **ディスクを入れて曲名をつけたい曲を再生する。**

2 **EDIT/ENTERボタンを押す。**
「♫ : Name」が点滅します。

3 **EDIT/ENTERボタンをもう一度押す。**

4 **「停止中にディスク名を入力する」（27~28ページ）の手順4から6と同様の操作をする。**

録音中に曲名・ディスク名を入力する

1 **録音中にEDIT/ENTERボタンを押す。**
「♫ : Name」が点滅します。

2 **曲名を入力するには、EDIT/ENTERボタンをもう一度押す。**
ディスク名を入力するには、⏮ または⏭ボタンを繰り返し押して、
「⊖ : Name」が点滅するのを確認し、EDIT/ENTERボタンを押します。

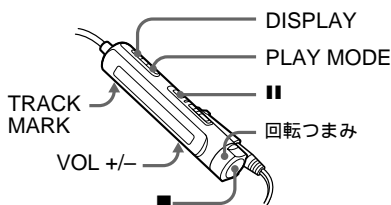
3 **「停止中にディスク名を入力する」（27~28ページ）の手順4から6と同様の操作をする。**

途中でやめるときは

■ボタンまたはT MARKボタンを押します。

ご注意

録音中に曲名・ディスク名を入力しているときに録音が終了したときや、曲名入力をしているときに次の曲が始まったときは、その時点の入力が自動的に確定します。

リモコンで操作する

停止中にディスク名を入力する

1 ディスクを入れる。

すでに入っているディスクのディスク名をつけるときは、■ボタンを押して停止します。

2 DISPLAYボタンを2秒以上押す。

「 : Name」が点滅します。

3 ■ボタンを押す。

ディスク名の入力準備状態になります。

4 回転つまみを回して、文字を選び、■ボタンを押して確定する。

確定すると、選んだ文字が点灯に変わり、次の文字位置でカーソルが点滅します。

ボタン	機能
❚❚	カナ→アルファベット→記号と数字の順に切り替わる。
VOL ＋／ー	文字カーソルを左右に移動する。
⏮／▶・⏭	アルファベットや記号・数字入力時は回転つまみを▶・⏭側に回すと1文字ずつ変わる。⏮側に回すと戻る。カタカナ入力時に回転つまみを⏮／▶・⏭側に2秒以上回すと、「ア」↔「カ」↔「サ」↔「タ」の順に文字が選べる。
DISPLAY	記入位置に空白を挿入し、一文字分の文字を追加できる。
PLAY MODE	記入位置の文字を削除し、以降の文字を一文字ずつつめる。
TRACK MARK	タイトルをつけるのを中止する。

5 手順4を繰り返して名前をつける。

6 ■ボタンを2秒以上押したままにする。

曲名またはディスク名がつきます。

再生中に曲名を入力する

1 **ディスクを入れて曲名をつけたい曲を再生する。**

2 DISPLAY**ボタンを**2**秒以上押す。**

「♫ : Name」が点滅します。

3 **■ボタンを押す。**

ディスク名の入力準備状態になります。

4 **「停止中にディスク名を入力する」（**29**ページ）の手順**4**から**6**と同様の操作をする。**

録音中に曲名・ディスク名を入力する

1 **録音中に**DISPLAY**ボタンを**2**秒以上押す。**

「♫ : Name」が点滅します。

2 **曲名を入力するには、■ボタンを押す。**

ディスク名を入力するには、回転つまみを⏮側または►・⏭側に回して「◎ : Name」が点滅するのを確認し、■ボタンを押します。

3 **「停止中にディスク名を入力する」（**29**ページ）の手順**4**から**6**と同様の操作をする。**

ご注意

録音中に曲名・ディスク名を入力しているときに録音が終了したときや、再生中に曲名入力をしているときに次の曲が始まったときは、その時点の入力が自動的に確定します。

途中でやめるときは

TRACK MARKボタンを押します。

入力できる文字

- カタカナ
- アルファベットA～Zの大文字、小文字
- 数字0～9
- 記号 ！＂＃＄％＆（）＊ ．；＜＝＞？＠＿｀＋－＇，／：␣（スペース）

名前を変えるには

手順1から3を行って、変更したい曲名またはディスク名を表示させます。変更したい名前の上から新しい名前を入力し、EDIT/ENTERボタン(リモコンでは■ボタンを2秒以上)を押します。

カナで入力したタイトルを、カナ表示に対応していないミニディスク機器で表示させると、ローマ字表記になります。その際、カナの先頭と最後に「＾」がつきます。

ご注意

市販のソフトや録音していないディスクに、曲名やディスク名をつけたり、書き換えをすることはできません。

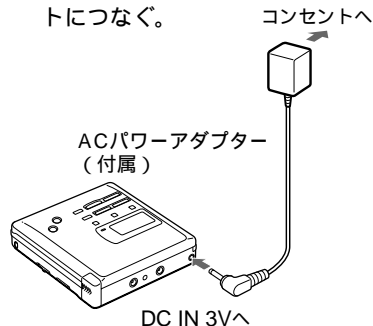
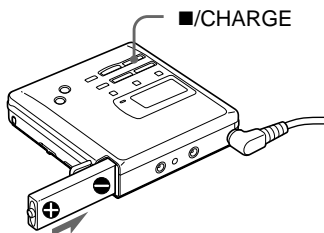
家庭用電源（コンセント）以外に本機で使える電源は、以下の通りです。

本体に入れて…
－充電式ニッケル水素電池
　NH-14WM
バッテリーケースを使って…
－単3形アルカリ乾電池2本

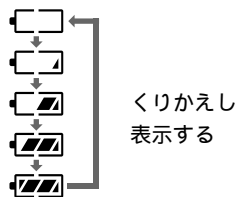
録音などで長時間お使いになるときは、家庭用電源（コンセント）につなぐことをおすすめします。

ニッケル水素電池を充電する

充電式ニッケル水素電池（付属）が使えます。お使いになる前に必ず充電してください。

1 ACパワーアダプターをコンセントにつなぐ。

2 本体に充電式ニッケル水素電池（付属）を入れる。

3 ■/CHARGEボタンを押す。

「Charging」が点滅し、▭の表示が出て、充電が始まります。

くりかえし表示する

表示が消えたら充電完了

充電時間は、放電しきった状態から充分に充電するまでに約3時間かかります。充電の途中で中止したいときは■/CHARGEボタンを押します。

4 ACパワーアダプターをはずす。

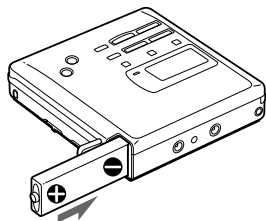
つないでいると、コンセントからの電源になります。

ご注意

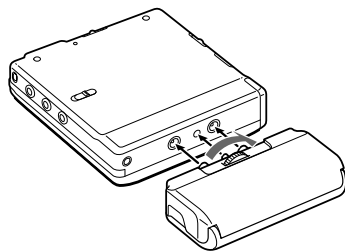
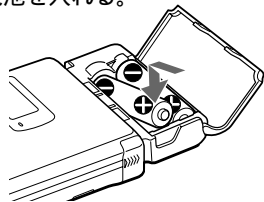
- 充電中に他の操作はできません。
- 充電には必ず付属のACパワーアダプターをお使いください。
- 充電時間は充電式電池の使用状態により異なります。
- はじめて充電するときや、長時間使用しなかったあとでは、充電しても通常の使用時間より短いことがあります。何回か放電をくり返すと通常の状態に戻ります。
- 充電式電池を充分に充電しても使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電式電池と取り換えてください。
- 充電式電池を持ち運ぶときは付属のバッテリーキャリングケースに入れてください。ケースに入れずに、キーホルダーなどの金属類と一緒にポケットやバッグなどに入れると、電池の＋と－がショートして危険です。
- 長い間使用しないときは、充電式電池を本体から取り出しておいてください。

ニッケル水素電池で使う

お使いになる前に必ず充電しておいてください。

1 充電したニッケル水素電池を＋－を正しく入れる。

乾電池で使う

付属の外付けバッテリーケースを使います。

1 バッテリーケースを取り付ける。

2 乾電池を入れる。

ご注意

- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を一緒に使用しないでください。
- 電池を交換するときは、いったん停止させてから交換してください。
- 乾電池を交換するときは、2本同時に新しい電池と交換してください。
- 本機は乾電池1本だけでも動作しますが、正常に動作しないことがありますので、必ず2本で使用してください。

各電池の持続時間[1)]

長時間録音するときは、家庭用電源（コンセント）につないで使うことをおすすめします。

	録音時[2)]	再生時
充電式ニッケル水素電池（NH-14WM）	約2.5時間	約4時間
ソニーアルカリ乾電池LR6(SG)2本	約5時間	約10時間
充電式ニッケル水素電池（NH-14WM）＋ソニーアルカリ乾電池LR6(SG)2本	約9.5時間	約16時間

1) 周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。
2) 録音する場合には電池の消耗による失敗を防ぐため、新しい乾電池または充分に充電した充電式電池をお使いください。

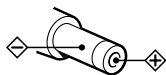
電池交換の目安について

電池が消耗すると、本体やリモコンの表示窓に▭が点滅したりまたは「LOW BATT」が表示されます。新しい電池と交換するか、充電しなおしてください。

使用上のご注意

分解しないでください
ミニディスクレコーダーに使われているレーザーが目にあたると危険です。

レンズに触れないでください
レンズが汚れると音飛びが起きたり、再生できなくなったりする場合があります。
また、ほこりがつかないように、ディスクの出し入れ以外はふたを必ず閉じておいてください。

ACパワーアダプターについて
本機には、付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

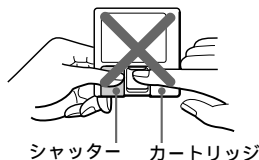
置き場所について
次のような場所には置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近く。
- 窓を閉めきった自動車内(とくに夏季)。
- 風呂場など、湿気が多いところ。
- ほこりが多いところ。
- 磁石、スピーカーボックス、テレビなど磁気を帯びたものの近く。

温度上昇について
本機を長時間お使いになると、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。

操作中の動作音について
本機は省電力の動作方式になっています。そのため、動作中は断続的に動作音がしますが故障ではありません。

表面のお手入れについて
水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面をいためますので使わないでください。

リモコンプラグのお手入れについて
リモコンプラグが汚れていると雑音や音飛びの原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、リモコンの先端のプラグ部をときどき柔らかい布でからぶきしてください。

ミニディスクの取り扱いについて
ミニディスク自体はカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に扱えるようになっています。ただし、カートリッジのよごれや反りなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。
- **ミニディスクに直接触れない**
  シャッターを手で開けないでください。無理に開けるとこわれます。

- **持ち運ぶときや保管するときはケースに入れる。**
- **置き場所について**
  直射日光があたるところなど温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。また、砂浜など、ディスクに砂が入る可能性があるところには放置しないでください。
- **定期的にお手入れを**
  カートリッジ表面についたほこりやゴミを、乾いた布でふきとってください。
- **充電端子の汚れは**
  乾いた布でふきとってください。

ヘッドホンについて

付属のヘッドホンをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはお客様ご相談センターに相談してください。

万一故障した場合は、内部を開けずに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。（ディスクが本体に入っているときに故障した場合は、故障原因の早期解決のため、ディスクを入れたままご相談されることをおすすめします。）

故障かな？と思ったら

サービス窓口にご相談になる前にもう一度チェックしてみてください。

症状	原因	処置
ふたが開かない	録音・編集中に電源をはずしたり電池が消耗してしまった。	電源を入れ直し、消耗した電池は新しいものと交換する。
操作を受けつけない	ホールド機能が働いている(本体の操作ボタンを押すと「HOLD」表示が出る)。	HOLDスイッチを矢印と逆の方向にしてホールド機能を解除する(23ページ)。
	結露(内部に水滴が付着)している。	ディスクを取り出して、そのまま数時間おく。
	ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。	DC IN 3Vジャックとコンセントにしっかり差し込む。
	充電池または乾電池が消耗している(▭ または「LOW BATT」表示が点滅)。	充電池を充電するか、乾電池を2本とも交換する(31、32ページ)。
	乾電池が正しく入れられていない。	乾電池の⊕端子と⊖端子を正しく入れなおす(32ページ)。
	何も録音されていないディスクが入っている(「BLANK DISC」表示が出る)。	他のディスクと取り換える。
	表示窓のディスク表示が早く回転しているときは操作を受け付けられません。	ディスク表示がゆっくり回転してから次の操作をする。
	使用中、衝撃や過大な静電気、落雷による電源電圧の異常などのために強いノイズを受けた。	次の手順で操作しなおす。 1　すべての電源をはずす。 2　約30秒間そのままにする。 3　電源をつなぐ。
	損傷しているディスク、または録音や編集の内容などの情報が正しく入っていないディスクが入っている。	ディスクを入れなおす。録音しなおす。
通常の再生ができない	リピート再生を指定した。	MODE(リモコンではPLAY MODE)ボタンを押して、⮎(リピート)表示が消えてから再生を始める(21ページ)。
ディスクの1曲目から再生できない	前回再生したときディスクの途中で止めた。	1曲目に戻るまで⏮ ボタンを繰り返し押す(リモコンでは回転つまみを⏮ 側に繰り返し回す)か、1度ふたを開けて、再生を始める位置をディスクの最初に戻す。
再生中に音がとぎれる	振動の多い場所に置いている。	振動の少ない場所で使う。
	ナレーションやイントロなど1曲の録音時間が極端に短いと、音がとぎれることがあります。	－

症状	原因	処置
雑音が多い	テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	テレビなどから離して置く。
充電ができない	ACパワーアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続しなおす(31ページ)。
録音・編集できない	音源と正しく接続されていない。	接続しなおす(10、15ページ)。
	ポータブルCDプレーヤーからデジタル出力が出ていない。	ポータブルCDプレーヤーは家庭用電源で使い、音飛びガード機能(ESPなど)を「切」にする。
	抵抗入りの接続コードを使った(アナログ録音時)。	抵抗が入っていない接続コードを使う。
	ディスクの誤消去防止つまみが開いている（「PROTECTED」表示が出る）。	つまみを戻す。
	録音レベルが小さすぎる(手動調節時)。	一時停止状態にして、⏮ / ⏭ボタンで録音レベルを調節する(18ページ)。
	再生専用ディスクが入っている(「P/B ONLY」表示が出る)。	録音用ディスクと取り換える。
	ディスクの残り時間が12秒以下である(「DISC FULL 」表示が出る)。	他の録音用ディスクと取り換える。
	録音、または編集中に電源が抜かれた、または停電になった。	それまでの録音の内容は消える。初めから録音しなおす。
頭出しマークのある位置を頭出しできない	⏮ または ⏭ ボタンを押してから一時停止した。	⏸ ボタンを押して一時停止してから ⏮ または ⏭ ボタンを押して頭出しする。
ヘッドホンから音が出ない	リモコン付きヘッドホンがしっかり差し込まれていない。	🎧 /REMOTEジャックにしっかり差し込む。
		リモコン本体にヘッドホンプラグをしっかり差し込む。
	音量が小さすぎる。	VOLUME ＋/－ボタン(リモコンのVOL ＋/－ボタン)で音量を調節する。
		AVLSスイッチを「NORM」にする(22ページ)。
	リモコンプラグが汚れている。	リモコンプラグをからぶきする。
時計が正確に動かない	長時間電源をはずしていたため内蔵の時計用電源が消耗している。	ACパワーアダプターをコンセントにつないで充電する。ただし、時計用電源が消耗していなくても月に2分程度の誤差が生じることがあります(20ページ)。
時計表示が出ない（--y--m--dになる）	時計合わせをしていない。	時計を合わせる(20ページ)。
録音日時が記録されない	時計合わせをしていない。	時計を合わせる(20ページ)。

システム上の制約による症状と原因

ミニディスクシステムでは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行われます。そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因
最大録音可能時間(60分、74分)に達していなくても、「TR FULL」表示が出る。	254曲録音されるとそれ以上の録音はできません。 さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音してください。
曲数も録音時間も余裕があるのに、「TR FULL」表示が出て、録音が止まる。	同じディスクで録音、消去をくりかえすと、1曲のデータが連続して記録されず、空いているところに分割して記録されることがあります。ミニディスクは、このような場合でも離れたデータをすばやく探し出し、順に再生します。ただし、分割したそれぞれのデータは曲の区切り（1曲）と同じ扱いになり、全部で254曲になると、録音できなくなります。 さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音してください。
頭出しマーク(曲番)が消せない。	つなごうとする曲のデータがディスク上に分散し、それぞれのデータの長さが12秒以下のとき、その曲の頭出しマーク(曲番)を消して前の曲とつなぐことはできません。また、ステレオ録音した曲とモノラル録音した曲、デジタル接続で録音した曲とアナログ接続で録音した曲もつなぐことはできません。
曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない。	ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視します。このため、短い曲を何曲消しても録音できる残り時間が増えないことがあります。
ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間(60分、74分)に一致しない。	通常、録音は約2秒を最小単位としてディスクに記録します。録音を止めたところでは、記録の最後の部分が実際には2秒に満たない場合でも2秒分のスペースを使います。 また、録音を止めた後再び録音を始めるときには、録音を始めたところで約2秒分のスペースを空けて記録を始めます。これは、録音を始めるときに誤って前の曲を消さないためです。このため、実際に録音できる時間は録音を止めるたびに、最大録音可能時間よりも最大で6秒短くなります。
編集した曲を再生しながら早送り、早戻しすると、音がとぎれる。	再生しながら早送り、早戻しするときは通常より高速で再生するため、短い曲がディスク上のいろいろなところに点在していると、探すのに時間がかかり、音がとぎれることがあります。

メッセージ一覧

本体の表示窓にエラー表示が出たら、下の表にしたがってチェックしてみてください。

表示	意味	対策
BLANK DISC	何も録音されていないディスクが入っている（再生・編集時）。	他のディスクと取り換える。
DISC ERR	損傷しているディスク、録音や編集の内容などの情報が正しく入っていないディスクが入っている。	ディスクを入れなおす。録音しなおす。
DISC FULL	ディスクの残り時間が12秒以下である(録音時)。	他の録音用ディスクと取り換える。
Data Save	録音した情報(音声)をメモリーからディスクに記録している。	しばらく待つ(衝撃を与えたり、電源を抜いたりしない)。
Toc Edit	録音した情報(曲の開始・終了位置など)をメモリーからディスクに記録している(44ページ)。	しばらく待つ(衝撃を与えたり、電源を抜いたりしない)。
BUSY	録音または編集の内容の処理をしている。	しばらく待つ。まれに1分ほどかかる場合があります。
NAME FULL	曲名やディスク名を200文字を越えて入力しようとした。 再生・停止中に曲名やディスク名を1700文字を越えて入力しようとした。 1回の録音中に曲名やディスク名を500文字を越えて入力しようとした。	文字数の制限内で入力する。
Hi DC in	電源電圧が高い（指定のACパワーアダプターまたはカーバッテリーコードを使っていない）。	指定のACパワーアダプターまたはカーバッテリーコードを使う。
HOLD	ホールド機能が働いている。	HOLDスイッチを矢印と逆の方向にしてホールド機能を解除する(23ページ)。
LOW BATT	電池が消耗した。	充電池を充電し直すか、新しい乾電池と入れ換える(31、32ページ)。
MEM OVER	表示窓に何も表示されていないときに、振動のあるところで録音を始めた。	振動のないところで録音をし直す。
NO COPY	シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)によりダビングは禁止されている。	アナログ入力(LINE IN)を使って録音する(10ページ)。
NO DISC	ディスクが入っていない。	ディスクを入れる。

表示	意味	対策
NO SIGNAL	デジタル入力信号が途切れた。	デジタル入力の接続を確かめる。アナログ入力するときは無視する。
P/B ONLY	再生専用ディスクが入っている(録音・編集時)。	録音用ディスクと取り換える。
PROTECTED	ディスクが誤消去防止状態になっている。	誤消去防止つまみを戻す。
SORRY	ディスクの1曲目の頭で、頭出しマークを消そうとした。 種類の異なる曲と曲の頭出しマークを消そうとした（例えばステレオ録音された曲とモノラル録音された曲の頭出しマークを消そうとした）。 LINE OUTジャックに接続コードがつながれているときに、DIGITAL MEGA BASSボタンを押した。 シンクロ録音中に❚❚ボタンまたはT MARKボタンを押した。	ー
TEMP OVER	本機の温度が高くなりすぎた。	涼しいところで本機をしばらく休ませてから使う。
TR FULL	曲番が254を超えた。	曲番を削除して254以下にする。
TrPROTECT	トラックプロテクト(曲の誤消去防止)がかかっている曲に録音・編集をしようとした。	他の曲で録音・編集する。
EDITING	リモコンで編集中に本体キーのどれかを押した。または本体で編集中にリモコンキーのどれかを押した。	ー

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

- **調子が悪いときはまずチェックを**
  この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
- **それでも具合の悪いときはサービスへ**
  お買い上げ店、または添付の「ソニーサービスご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニー相談窓口にご相談ください。
- **保証期間中の修理は**
  保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間経過後の修理は**
  修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
- **部品の保有期間について**
  当社ではポータブルミニディスクレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

主な仕様

ミニディスク

形式
ミニディスクデジタルオーディオシステム

録音方式
磁界変調光学方式

再生読み取り方式
非接触光学読み取り(半導体レーザー使用)

レーザー
GaAIAsダブルヘテロダイオード、λ=780nm

録音再生時間
最大148分(MDW-74使用、モノラル録音、再生時)
最大74分(MDW-74使用、ステレオ録音、再生時)

回転数
約400rpm〜900rpm(CLV)

エラー訂正方式
アドバンスドクロスインターリーブリードソロモンコード (ACIRC)

サンプリング周波数
44.1kHz

サンプリングレートコンバーター
入力：32kHz/44.1kHz/48kHz

コーディング
アダプティブトランスフォームアコースティックコーディング(ATRAC)

変調方式
EFM

チャンネル数
ステレオ2チャンネル
モノラル1チャンネル

周波数特性
20〜20,000Hz±3dB

ワウフラッター
測定限界以下

入力端子
マイク：ステレオミニジャック、入力レベル0.22〜0.78mV
入力（アナログ）：ステレオミニジャック、入力レベル69〜194mV
入力（光デジタル）*：光ミニジャック
*入力（光デジタル）と入力（アナログ）は兼用ジャック

出力端子
ヘッドホン：ステレオミニジャック、最大出力レベル5mW+5mW、負荷インピーダンス16Ω
出力：ステレオミニジャック、規定出力レベル194mV、負荷インピーダンス10kΩ

電源・その他

電源
充電式ニッケル水素電池
NH-14WM (付属)
乾電池　アルカリ単3形2本(別売り)

電池持続時間
「各電池の持続時間」(32ページ)参照

最大外形寸法
本体　約78.9 × 18.9 × 84 mm
(幅/高さ/奥行き、最大突起部を含まず)

質量
本体　約147g
本体使用時　約190g(録音用ミニディスク、充電式電池NH-14WMを含む)

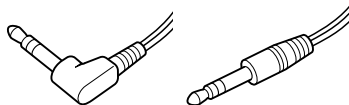
付属品
ACパワーアダプター(1)
リモコン付きヘッドホン(1)
充電式ニッケル水素電池(1)
乾電池ケース（単3形アルカリ乾電池用）(1)
バッテリーキャリングケース(1)
キャリングポーチ(1)
取扱説明書(1)
ソニーご相談窓口のご案内(1)
保証書(1)

別売りアクセサリー

充電式ニッケル水素電池NH-14WM
ガム型ニッケル水素充電池用充電器BC-9HM
光デジタルケーブル
　　光角形プラグ←→光ミニプラグ
　　POC-5/10/15AB
　　光ミニプラグ←→光ミニプラグ
　　POC-5/10/15B
　　光ミニプラグ（入／出力）←→L型7
　　ピンコネクターPOC-DA12SP
接続コード(アナログ)
　　ステレオミニプラグ←→ピンプラグ
　　(X2) RK-G129
　　ステレオミニプラグ←→ステレオミニ
　　プラグ RK-G136
カーコネクティングパックCPA-8
カーバッテリーコードDCC-E230
ステレオマイクロホンECM-717、ECM-MS907、ECM-MS957
ステレオヘッドホン*MDR-D77/D55、MDR-CD470、MDR-E888SP
アクティブスピーカーSRS-A41/A91/Z1000
ミニディスク(生ディスク)ESシリーズMDW-60C/74C、プリズムシリーズMDW-60B/74B、カラーコレクションシリーズ、ベーシックシリーズ、スパークリングシリーズMDW-74DL/74DD、Luminaシリーズ
ミニディスクキャリングケースCK-MD4
ミニディスク・ファイリングボックスCK-MD10
MDラベルプリンターMZP-1

本機は、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

* ヘッドホンは、本体の🎧/REMOTEジャックに直接つなぐときも、リモコンにつなぐときも、ステレオミニプラグのものをお求めください。

解説

ここでは、技術用語やミニディスクの特徴的な動作について解説します。

ミニディスクとは

直径64mmのディスクをカートリッジに収めたデジタルメディア、それが、ミニディ スク(MD)です。大きさはコンパクトディスク(CD)の約半分ですが、録音時間はほぼ同じ。音質においても、音声圧縮技術ATRAC(Adaptive TRansform Acoustic Coding) により、CDに迫る高音質を実現しています。また、カートリッジに入っているため、指紋や傷がつきにくく、取り扱いが手軽です。

「TOC EDIT」とは

TOCとはTable Of Contentsの略で、音声以外の情報を記録する、ミニディスク上 の領域です。どの曲が何曲目でディスクのどこにあるかなどを記録しています。ミ ニディスクが本だとすると、索引や目次にあたります。
録音やトラックマークの記録・削除、曲の移動などのさい、ミニディスクレコーダ ーはTOCの書き換え作業を行います(「Toc Edit」が表示されます)。この間はディスク への記録をしていますので、衝撃を与えたり、電源を抜いたりしないでください。記 録が正しく行われないばかりか、ディスクの内容が失われることがあります。

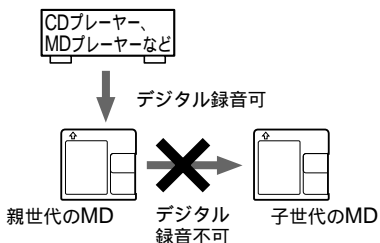
サンプリングレートとは

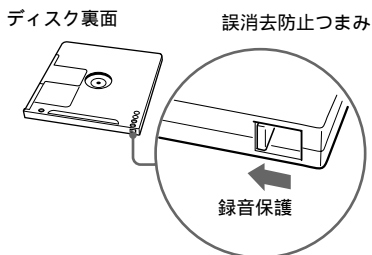
サンプリングレートとは、1秒間の音声をどれだけの量のデジタル信号にするかを 表す数値です。一般に数値が大きいほど高音質になります。 サンプリングレートの異なる機器同士では、通常デジタル信号によるダビングはできません。これを可能にするのが、サンプリングレートコンバータです。コンバータは 、デジタル信号を他のサンプリングレート用のデジタル信号に変換します。本機はこのコンバータを内蔵しています。光デジタル入力端子 に入ってきたサンプリングレートの異なる信号(BSチューナー:32kHz, DAT:48kHzなど) は、コンバータによって、MD のサンプリングレート(44.1kHz) に変換されて録音され ます。

MDの曲番のつきかた

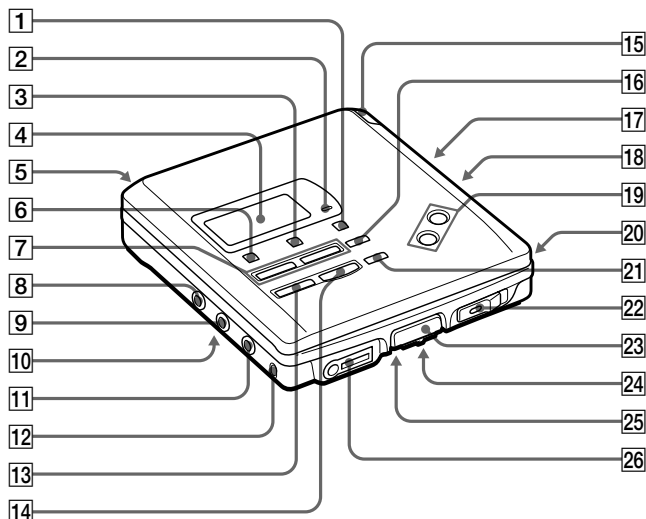
CDなど曲番のついたメディアから録音した場合、レコーダーは次のような条件で 曲番を作成し記録します。
デジタル入力からの録音→入力ソースのトラック番号が変化したとき
アナログ入力からの録音→2秒間以上無音状態が続き、その後音声が入ってきたとき。
なお、CDで「-0:03」から新しい曲番が始まっているときは、0:00になった時点でMDに新しい曲番が記録されます。

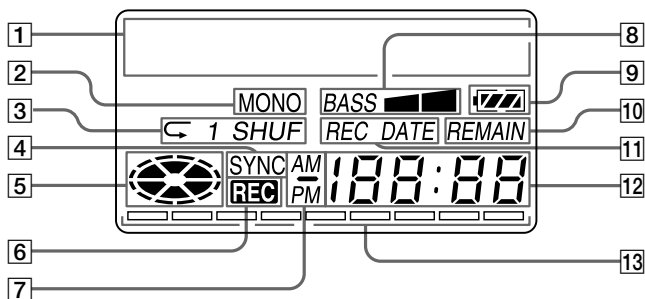
デジタル録音の制限について

本機は、音楽ソフトの著作者権を保護するため、「シリアルコピーマネジメント システム(SCMS)」に準拠しています。光デジタル入力端子から録音したミニディスクは、さ らに他の機器でデジタル録音することはできません。デジタル入力で録音したミニデ ィスクを別のミニディスクに録音するには、アナログ入力(LINE IN)を使ってください。

録音したものを誤って消さないために

誤消去防止つまみをずらして穴が開いた状態にします。再び録音するときはつまみをもとに戻します。

各部のなまえ

（　）内のページに詳しい説明があります。

本体

1 END SEARCHボタン（11）
2 RECランプ（19）
3 DISPLAYボタン（19、22）
4 表示窓（19、22、45）
5 DC IN 3Vジャック（背面）（10）
6 MODEボタン（21）
7 ⏮（早戻し）/⏭（早送り）ボタン（11、13）
8 LINE IN (OPTICAL)ジャック（10、15）
9 MIC (PLUG IN POWER)ジャック（17）
10 MIC SENSスイッチ（底面）（17）
11 LINE OUTジャック（23）
12 DIGITAL MEGA BASSボタン（21）
13 ■（停止）/CHARGEボタン（11、13、31）
14 ▶（再生）ボタン（13）
15 電池入れ（背面）（31）
16 EDIT/ENTERボタン（24）
17 AVLSスイッチ（底面）（22）
18 SYNCHRO RECスイッチ（16）
19 VOLUME＋／－ボタン（13）
20 T MARKボタン（24）
21 ❚❚（一時停止）ボタン（11、13）
22 RECスイッチ（11）
23 OPENボタン（10、11）
24 HOLDスイッチ（23）
25 CLOCK SETボタン（底面）（20）
26 🎧/REMOTEジャック（12）

表示窓

1 文字情報表示部（19、22）
ディスク名や曲名、日付、エラー表示、曲番などが文字で表示されます。

2 モノラル表示

3 再生状態表示
ディスクの再生状態を表示します。

4 シンクロ録音表示
シンクロ録音時に表示されます。

5 ディスク表示
録音、再生、編集のとき、ディスクが回転していることを示します。

6 録音表示（11）
録音時に表示されます。録音一時停止のときは点滅します。

7 午前／午後表示（20）
時刻が12時間表示のときに表示されます。

8 メガベース表示（21）

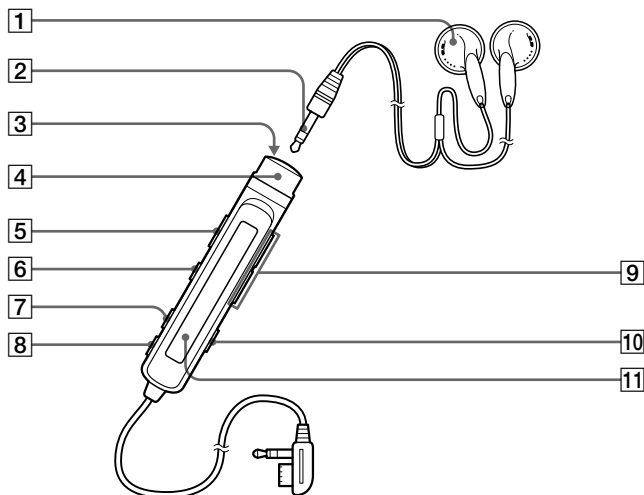
9 電池残量表示（31）
充電池や乾電池の残量を表示します。

10 REMAIN表示（19、22）
ディスクの残り曲数、ディスクや曲の残り時間を表示していることを示します。

11 REC DATE表示
表示窓に録音日時が出ているときに表示されます。

12 時刻／時間表示（19、20、22）
録音時刻、現在時刻、曲の再生時間、曲やディスクの残り時間を示します。

13 レベル表示
録音時には入力レベルを、再生時には再生音のレベルを表示します。

リモコン付きヘッドホン

1 ヘッドホン
別売りのヘッドホンに付け替えられます。

2 ステレオミニプラグ

3 ■(停止)ボタン(11、13)

4 回転つまみ
停止中に►•►►I側に回すと再生、再生中に► •►►I 側に回すと頭出し、回したままにすると早送り、再生中にI◄◄側を回すと頭出し、回したままにすると早戻しとなります。

5 HOLDスイッチ（23）
リモコンのボタンが働かなくなり、誤操作を防ぎます。

6 II（一時停止）ボタン（11、13）

7 PLAY MODEボタン(21)

8 DISPLAYボタン(19、22)

9 VOL（音量）＋／－ボタン(13)

10 TRACK MARKボタン(27)

11 表示窓(19、22)

Operating Instructions

Welcome!

Welcome to the world of the MiniDisc! Here are some of the capabilities and features you'll discover with the new MiniDisc Recorder.

- Recording MD Walkman in an ultra-compact body — Almost as small as a playback-only MD Walkman; easy to carry in your pocket or bag.
- Low power consumption design —Runs on a single ”chewing gum” type rechargeable battery.
- Simultaneous labeling feature — No more waiting for the recording to end; you can label tracks and discs while the MD is being recorded.
- 9-letter, backlit LCD remote control with editing capabilities — You can now label tracks and discs, change track sequence, etc., with the easy-to-operate stick remote controller.
- Shock-resistant memory — Offsets up to 40 seconds of optical read errors.
- High-fidelity recording — Low-noise, low-distortion, high-fidelity recording through the optical digital input jack.
- Digital synchro-recording — When recording from a digital equipment with optical output, the recorder automatically starts and pauses recording in sync with operation on the digital source.
- Sampling rate converter — This unit enables you to record programs from digital equipment using other sampling rates, such as a BS tuner or DAT deck.
- Long recording with monaural sound — You can record up to 148 minutes on a disc using monaural recording.
- Date and time stamp function — The built-in clock automatically records the date and time whenever you make a recording.
- Digital AGC (Auto Gain Control) — Automatic recording level adjustment without sacrificing superb digital sound.
- Title function — You can see disc and track titles in the display on the main unit or the remote control while you are playing / recording an MD.

Looking at the controls

The numbers are keyed to the illustrations in the Japanese text (pages 45 to 47).

The recorder

1 END SEARCH button
2 REC lamp
3 DISPLAY button
Press to display the current play mode, the remaining time of the current track, the remaining time of the disc, or the recording date and time.
4 Display window
5 DC IN 3V jack
6 MODE button
Each time you press here while playing an MD, the recorder plays the MD in a different play mode: normal play, all repeat, single repeat, or shuffle repeat. Press here while recording to select monaural recording.
7 ⏮ / ⏭ (search / AMS) buttons
8 LINE IN (OPTICAL) jack
9 MIC (PLUG IN POWER) jack
10 MIC SENS (mic sensitivity) switch (at the bottom)
11 LINE OUT jack
12 DIGITAL MEGA BASS button
Press to emphasize bass sound.
13 ■ (stop) / CHARGE button
14 ► (play) button
15 Battery compartment
16 EDIT / ENTER button
17 AVLS (Automatic Volume Limiter System) switch (at the bottom)
Slide to LIMIT to limit the maximum volume.
18 SYNCHRO REC (synchro-recording) switch
19 VOLUME + / – buttons

20 T MARK (track mark) button
21 ❚❚ (pause) button
22 REC (record) switch
23 OPEN button
24 HOLD switch
Slide to lock the controls of the recorder.
25 CLOCK SET button (at the bottom)
26 🎧/REMOTE (headphones / remote) jack

The display window of the recorder

1 Character information display
Displays the disc and track name*, date, error messages, track numbers, etc.
* Disc and track names appear only with MDs that have been electronically labeled.
2 MONO(monaural) indication
3 Play mode indication
Shows the play mode of the MD.
↻ (all repeat): All tracks play repeatedly.
↻ *1*(single repeat): One track plays repeatedly.
↻ *SHUF*(shuffle repeat): Tracks will be repeated in random order.
4 SYNC (synchro-recording) indication
Lights up while synchro-recording.
5 Disc indication
Shows that the disc is rotating for recording, playing or editing an MD.
6 REC indication
Lights up while recording. Flashes when standing by for recording.
7 AM / PM indication
Lights up along with the time indication in the 12-hour system.
8 Mega bass indication
9 Battery indication
Shows battery condition. While charging the rechargeable battery, this indication shows the charging condition.
10 REMAIN (remaining time / tracks) indication
Lights up along with the remaining time of the track, remaining time of the MD, or remaining number of tracks.
11 REC DATE (recorded / current date) indication
Lights up along with the date and time the MD was recorded. When only "DATE" lights up, the current date and time are displayed.
12 Time display
Shows the elapsed time of the track being recorded or played.
13 Level meter
Shows the level of the MD being played or recorded.

The headphones with a remote control

1 Headphones
Can be replaced with optional headphones.
2 Stereo mini plug
3 ■ (stop) button
4 Control
To play, turn to ►•►►❘ during stop.
Turn to ►•►►❘ during play to search the beginning of the succeeding track; hold in this position to fast-forward.
Turn to ❘◄◄ during play to search the beginning of the preceeding track; hold in this position to rewind.
5 HOLD switch
Slide to lock the controls of the remote control.
6 ❚❚ (pause) button
7 PLAY MODE button
8 DISPLAY button
9 VOL (volume) + / – buttons
When the AVLS switch is set on, you cannot increase the volume to the maximum. To increase the volume above the limited level, set the AVLS switch to off.
10 TRACK MARK button
11 Display window

▶MD recording

Recording an MD right away!

See the illustrations in the Japanese text (page 10 to 11).

Use a line cable (not supplied) to hook up an analog source. The sound will be sent from the connected equipment as analog signal but will be recorded digitally on the disc. If you want to record programs from digital equipments or a microphone, see "Various ways of recording".
Premastered MDs cannot be recorded over.

1. Make connections (Connect securely).
   ① Connect the LINE IN (OPTICAL) jack of recorder to the LINE OUT R(red)/L (white) jacks of the source with a line cable.
   The recorder switches to analog input automatically.
   ② Connect the DC IN 3V jack of the recorder to a wall outlet with the supplied AC power adaptor.
   When the recorder has different sound sources connected at the same time, the recorder switches to the digital, microphone, or analog input in this order of priority.
2. Insert a recordable MD.
   ① Press OPEN and open the lid.
   ② Insert a recordable MD with the label side facing up, and press the lid down to close.
3. Select recording start point.
   If you want to add a recording to the end of the previous recording, press END SEARCH.
   (If you want to start recording from the beginning, skip this step).
4. Start recording.
   ① Press and slide the REC switch to the right.
   "REC" lights up and recording starts .
   ② Play the sound source.
   The level of the recorded sound is adjusted automatically.

To stop recording, press ■.

Do not move or jog the recorder or disconnect the power source while the "Data Save" or "Toc Edit" indication is flashing in the display.

To	Press
Pause	❚❚.[1] Press ❚❚ again to resume recording.
Record over partway through the previous recording	►, ►►❙ or ❙◄◄ to find the start point of recording and press ■ to stop. Then slide the REC switch.
Remove the MD	■, then press OPEN and open the lid.[2]

[1] A new track mark is added at the point where you pressed ❚❚, and the recording will be marked with the new track number when you resume recording.
[2] Once you open the lid, the point to start recording will change to the beginning of the first track. When recording on a recorded MD, check the point to start recording on the display.

If the recording does not start

Make sure the MD is not record-protected. If the tab at the side of the MD is open, slide it back so the tab is visible.

Note

If the power supply is disrupted (i.e. the battery is removed or becomes exhausted or the AC power adaptor is disconnected) when the recorder is operating, the lid will not open until the power is restored.

►MD playing

Playing an MD right away!

See the illustrations in the Japanese text (pages 12 to 13).

If you want to use the rechargeable battery, be sure to recharge them before playing (see page 31).

1 Make connections (Connect securely).
① Connect the remote control-equipped headphones (supplied) to the 🎧/REMOTE jack.
② Connect the DC IN 3V jack of the recorder to a wall outlet with the supplied AC power adaptor.

2 Insert an MD.
① Press OPEN and open the lid.
② Insert an MD with the label side facing up, and press the lid down to close.

3 Start playing.
① Press ► (Turn the control to ►•►►I on the remote control). A short beep sounds in the headphones.
② Press the VOLUME +/– buttons to adjust the volume.

To stop play, press ■.

To	Do this (Beeps in the headphones)
Pause	Press II. (Continuous short beeps) Press II again to resume play.
Find the beginning of the current track	Press I◄◄ once. Turn the control to I◄◄ on the remote control. (Three short beeps)
Find the beginning of the next track	Press ►►I once. Turn the control to ►•►►I on the remote control. (Two short beeps)
Go backwards while playing[1]	Keep pressing I◄◄. Keep the control turned to I◄◄ on the remote control.
Go forward while playing[1]	Keep pressing ►►I. Keep the control turned to ►•►►I on the remote control.
Remove the MD	■, then press OPEN and open the lid.[2]

[1] To go backwards or forward quickly without listening, press II and hold down I◄◄ or ►►I (keep the control turned on the remote control).
[2] Once you open the lid, the point to start play will change to the beginning of the first track.

If the playback does not start

Make sure the recorder is not locked. If it is locked, slide the HOLD switch in the opposite direction of the arrow.

When using optional headphones

Use headphones with a stereo mini-plug. You cannot use headphones with a micro-plug.

Notes

- The sound may skip during playback when the recorder is exposed to continuous vibration, such as while jogging.
- If the power supply is disrupted (i.e. the battery is removed or becomes exhausted or the AC power adaptor is disconnected) when the recorder is operating, the lid will not open until the power is restored.

▶Various ways of recording

Connecting digital and analog inputs

The recorder selects digital or analog input according to how the sound source is hooked up.

Input / Difference	Digital input	Analog (line) input
Connectable source	Equipment with an optical digital output jack	Equipment with an analog (line) output jack
Usable cord	Digital cable (with an optical or an optical-mini plug)	Line cable (with 2 phono plugs or a stereo-mini plug)
Signal from the source	Digital	Analog Even when a digital source (such as a CD) is connected, the signal sent to the recorder is analog.
Recorded track numbers	Marked (copied) auto-matically • at the same positions as the source. • when recording is paused.	Marked • after more than 2 seconds of silence. • when recording is paused. You can erase unnecessary marks after recording.
Recorded sound level	Same as the source	Adjusted automatically. You can also adjust it manually.

Recording with digital input (optical cable required)

See the illustration in Japanese text (page 15).

Connect to a digital source using an optical cable (POC-5B or POC-5AB, not supplied) to make digital recordings. Digital recording is possible even from digital equipment with different sampling rates, such as a DAT deck or a BS tuner, using the built-in sampling rate converter.

1. Connect the LINE IN (OPTICAL) jack of the recorder to the optical digital output jack of the source with an optical cable (not supplied).
   The recorder switches to digital input automatically.
2. Connect the power source.
   To use on AC power, see "Recording an MD right away!" To use on other power sources, see page 60.
3. Insert a recordable MD.
   Press OPEN to open the lid, insert a recordable MD, and close the lid.
4. Press and slide the REC switch to the right.
   "REC" lights up and recording starts.
5. Play the sound source.

To stop recording, press ■.

Notes

- When recording from a portable CD player, play it on AC power and disable the anti-skip function (such as ESP*).
- Digital output may be disabled on some portable CD players when the player is not run on AC power.

* Electronic Shock Protection

Synchro-recording from a digital source

See the illustration in Japanese text (page 16).

You can easily dub a digital source on an MD by using the SYNCHRO REC switch. Before synchro-recording, be sure to make digital connection and insert a recordable MD.

1 Slide the SYNCHRO REC switch to ON.
"SYNC" lights up in the display.
2 Press and slide the REC switch to the right.
"REC" lights up in the display.
The recorder starts recording when you start playing the source player.

To stop recording, press ■.

Tips

- You cannot pause recording manually during synchro-recording.
- When there is no sound from the source player for more than 3 seconds during synchro-recording, the recorder stands by for recording automatically. When the sound comes from the souce player, the recorder starts synchro-recording again. When the MD player is in recording pause for longer than 5 minutes, recording stops automatically.
- There may be cases when recording does not pause automatically during synchro-recording even when there are no recorded sound on the sound source, depending on the noise level of the source.

Note

Do not switch SYNCHRO REC after step 2. Recording may not be made properly.

Recording from a microphone

See the illustration in the Japanese text (page 17).

Connect a microphone to the MIC (PLUG IN POWER) jack. Use a stereo microphone ECM-717, ECM-MS907, ECM-MS957, etc., not supplied).

1 Select the sensitivity with the MIC SENS switch.
Usually, set it to HIGH. When recording loud sounds such as a live concert, set it to LOW.
2 Insert a recordable MD.
Press OPEN to open the lid, insert a recordable MD, and close the lid.
3 Press and slide the REC switch to the right.
"REC" lights up and recording starts.

To stop recording, press ■.

Notes

- You cannot record through the microphone while an optical cable is connected to the LINE IN (OPTICAL) jack. The recorder automatically switches input in the following order; optical input, microphone input, and analog input.
- The microphone may pick up the operating sound of the recorder itself. Use the microphone away from the recorder in such cases.

Recording in monaural for double the normal recording time of an MD

See the illustration in the Japanese text (page 17).

Before recording, make connections to the sound source and the power source, and insert a recordable MD.

1 While pressing ❚❚, press and slide the REC switch to the right.
The recorder stands by for recording.

2 Press MODE.
“Mono REC” appears in the display, and the recorder switches to monaural recording.
3 Press ❚❚ again to start recording.
4 Start the sound source.

Tips

- The recorder switches back to stereo recording when you press ■ to stop recording.
- If you record in monaural from a stereo source, the sounds from left and right will be mixed.
- The MDs recorded in monaural can be played back only with an MD player / recorder that has the monaural playing function.
- Sound recorded through digital input can be monitored in stereo through headphones, etc.

Adjusting the recording level (Manual recording)

See the illustration in the Japanese text (page18).

When you record with an analog (line) input, the sound level is adjusted automatically. If necessary, you can set the level manually.

1 While holding down ❚❚, hold the REC switch to the right for more than 2 seconds.
"ManualREC" appears, and the recorder stands by for recording.
2 Play the source.
3 While observing the level meter in the display, adjust the recording level by pressing ▶▶❙ (+) or ❙◀◀ (–).
Set the level so that it hits the –12dB bar input level.
4 Press ❚❚ again to start recording.

Tips

- The recorder switches back to automatic level adjustment when you press ■ to stop recording.
- The recording level should be adjusted while the recorder is in standby mode. You cannot adjust it while recording.

Setting the clock to stamp the recorded time

See the illustrations in the Japanese text (page20).

To stamp the date and time on the MD when you record, you need to set the clock.

1 Connect the supplied AC power adaptor.
2 Press CLOCK SET at the bottom of the recorder with a pointed object.
The digits of the year flash.
3 Change the current year by pressing ❙◀◀ or ▶▶❙.
To change the digits rapidly, keep pressing ❙◀◀ or ▶▶❙.
4 Press ▶ to enter the year.
The digit of the month flashes.
5 Repeat steps 3 and 4 to enter the current month, date, hour, and minute.
When you press ▶ to enter the minute, the clock starts operating.

If you make a mistake while setting the clock

Press ■, and repeat the steps above.
Press ▶ to locate the digit to be changed.

To display the time in the 24-hour system

Press DISPLAY while setting the clock. To change the clock to the 12-hour system, press DISPLAY again.

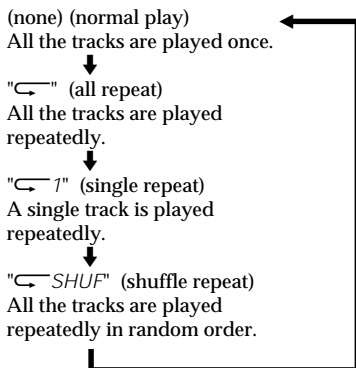
Charging the built-in battery for the clock

After setting the clock, leave the recorder connected to the AC power for about 2 hours to charge the built-in battery for the clock. Once charged, the built-in battery will last for about a month without being connected to any of the power sources. The recorder will automatically charge the built-in battery while operating on AC power, a rechargeable battery or dry batteries.

►*Various ways of playback*

Playing tracks repeatedly

See the illustrations in the Japanese text (page 21).

Press MODE (PLAY MODE on the remote control) while the recorder is playing an MD.
Each time you press MODE (PLAY MODE on the remote control), the play mode indication changes as follows:

Connecting to a stereo system

See the illustration in Japanese text (page 23).

Connect the LINE OUT jack of the recorder to the line in jacks of an amplifier or a tape player with a line cable (not supplied).
The output is analog. The recorder plays the MD digitally and sends analog signals to the connected equipment.

►Editing recorded tracks

You can edit your recordings.
Premastered MDs cannot be edited.

Notes

- When you press ■ after editing, "Toc Edit" flashes for about a second. Do not move or jog the recorder or disconnect the power source while the indication is flashing.
- You cannot edit on an MD with its tab open for protection. Before editing, close the tab at the side of the MD.

Erasing a track

See the illustration in the Japanese text (page 24).

You can quickly erase a recorded track. Note that once a recording has been erased, you cannot retrieve it.

1. Press EDIT/ENTER while playing the track you want to erase.
   " ♫ : Name" flashes in the display, and the recorder plays the selected track repeatedly.
2. Press ⏮ or ⏭ repeatedly until " ♫ : Erase" flashes in the display.
3. Press EDIT/ENTER again.
   "Erase OK?" and "Push ENTER" appear alternately in the display.
   To cancel erasing, press ■ or T MARK.

To erase a part of a track

Add track marks at the beginning and the end of the part you want to erase, then erase the part.

Erasing a whole disc

See the illustration in the Japanese text (page 24).

You can erase all the tracks on a disc at a time. Note that once a recording has been erased, you cannot retrieve it.

1. Press EDIT/ENTER on the recorder.
2. Press ⏮ or ⏭ repeatedly until " ⊘ : Erase" flashes in the display.
3. Press EDIT/ENTER again.
   "All Erase?" and "Push ENTER" appear alternately in the display.
   To cancel erasing, press ■ or T MARK.
4. Press EDIT/ENTER again.
   "Toc Edit" flashes in the display, and all the tracks will be erased.
   When erasing is complete, "BLANK DISC" appears in the display.

Adding a track mark

See the illustration in the Japanese text (page 25).

You can insert a track mark into a track.

1. While the recorder is playing or pausing an MD, press T MARK on the recorder at the point you want to mark.
   "MARK ON" appears in the display, and the track mark is added.

To add track marks while recording.

Press T MARK while recording (except while Synchro-recording).

Erasing a track mark

See the illustrations in the Japanese text (page 25).

When you record with analog (line) input, unnecessary track marks may be recorded. You can erase a track mark to combine the tracks before and after the track mark.

1. While playing the track with the track mark you want to erase, press ❚❚ to pause.
2. Find the track mark by pressing ⏮ slightly.
   "00:00" flashes in the display.
3. Press the T MARK to erase the mark.
   "MARK OFF" appears in the display.
   The track mark is erased and the two tracks are combined. The number of the newly combined track will be that of the first track and the succeeding tracks will be renumbered.

Moving recorded tracks

See the illustrations in the Japanese text (page 26).

You can change the order of the recorded tracks.

On the recorder

1. Press EDIT/ENTER while playing the track you want to move.
   " ♫ : Name" flashes in the display and the recorder plays the selected track repeatedly.
2. Press ⏮ or ⏭ repeatedly until "Move" flashes in the display.
3. Press EDIT/ENTER again.
4. Press ⏮ or ⏭ repeatedly to select the destination track number.
   To cancel moving, press ■ or T MARK.
5. Press EDIT/ENTER again.
   The track moves to the selected destination track.

On the remote control

1. Press DISPLAY for 2 seconds or longer while playing the track you want to move.
   " ♫ : Name" flashes in the display and the recorder plays the selected track repeatedly.
2. Turn the control until " ♫ : Move" appears in the display.
3. Press ■.
4. Turn the control to select the destination track number.
5. Press ■ again.
   The selected track moves just before the destination track.

Labeling recordings

See the illustration in the Japanese text (page 27).

You can name tracks during playback, discs during stop, and both during recording. Each name can be as long as 200 letters.
Each disc can hold up to 1700 alphanumeric letters or 800 katakana characters during playback or stop, and 500 alphanumeric letters or 200 katakana characters during one recording.

Labeling on the recorder

Labeling a disc during stop

1. Insert a disc.
   To label a disc that is already in the recorder, press ■ to stop.
2. Press EDIT/ENTER.
   " ⊘ : Name" flashes in the display.
3. Press EDIT/ENTER again.
4. Press ⏮ or ⏭ repeatedly to select a letter and press ▶ to enter.
   The selected letter stops flashing and the cursor moves to the next input position.
   Press ■ to switch between katakana, the alphabet, and symbols/numbers.
   Press VOLUME +/– to move the cursor to left or right.

Operating Instructions

continued

Press ▶▶I when inputting alphabet, symbol or numbers to change the letter to the one before / next one. Press I◀◀ to go back.
Press DISPLAY to insert a blank space to type in a new letter.
Press MODE to delete a letter and move back all following letters to the left.
Press ■ or T MARK to cancel labeling.

5 Repeat step 4 and enter all characters of the label name.
6 Press EDIT / ENTER.
The track or disc is labeled.

Labeling a track during playback

1 Insert a disc and play the track you want to label.
2 Press EDIT / ENTER.
” ♫ : Name” flashes in the display.
3 Press EDIT / ENTER again.
4 Follow steps 4 to 6 of ”Labeling a disc during stop” above.

Labeling a track or a disc during recording

1 Press EDIT / ENTER during recording.
” ♫ : Name” flashes in the display.
2 To label a track, press EDIT / ENTER again.
To label a disc, press I◀◀ or ▶▶I repeatedly until ” ⊘ : Name” flashes in the display, then press EDIT / ENTER.
3 Follow steps 4 to 6 of ”Labeling a disc during stop” above.

When the recording is stopped while labeling a track or a disc during recording, or when the playback moves on to the next track while labeling a track during playback, the input at that point is entered automatically.

Labeling on the remote control

Labeling a disc during stop

1 Insert a disc.
To label a disc that is already in the recorder, press ■ to stop.
2 Press DISPLAY for 2 seconds or longer.
” ⊘ : Name” flashes in the display.
3 Press ■.
The disc is ready to be labeled.
4 Turn the control to select a letter and press ■ to enter.
The selected letter stops flashing and the cursor moves to the next input position.
Press ■ to switch between katakana, the alphabet, and symbols / numbers.
Press VOLUME + / – to move the cursor to left or right.
Turn the control to ▶• ▶▶I when inputting alphabet, symbol or numbers to change the letter to the one before / next one. Turn to I◀◀ to go back.
Press DISPLAY to insert a blank space to type in a new letter.
Press PLAY MODE to delete a letter and move back all following letters to the left.
Press TRACK MARK to cancel labeling.
5 Repeat step 4 and enter all characters of the label name.
6 Keep pressing ■ for 2 seconds or longer.
The track or disc is labeled.

Labeling a track during playback

1 Insert a disc and play the track you want to label.
2 Press DISPLAY for 2 seconds or longer..
” ♫ : Name” flashes in the display.
3 Press ■.
The disc is ready to be labeled.
4 Follow steps 4 to 6 of ”Labeling a disc during stop” above.enter the selected character.

Labeling a track or a disc during recording

1 Press DISPLAY for 2 seconds or longer during recording.
” ♫ : Name” flashes in the display.

2 To label a track, press ■.
To label a disc, turn the control to ⏮ or ▶•⏭ ” ⊘ : Name” flashes in the display, then press DISPLAY.

3 Follow steps 4 to 6 of ”Labeling a disc during stop” above.

To cancel labeling, Press ■.

▶Power sources

You can use the recorder on …
– house current.
– a nickel metal hydride rechargeable battery (supplied).
– dry batteries (not supplied).

It is preferable to use the recorder on house current when recording for a long time.

Charging a nickel metal hydride rechargeable battery

See the illustrations in the Japanese text (page 31).

Before using the supplied nickel metal hydride rechargeable battery for the first time, you must charge it.

1 Connect the supplied AC power adaptor.
2 Insert the NH-14WM to the recorder and close the lid.
When charging is completed, battery indication disappears.
A completely discharged battery takes about 3 hours to charge fully.
3 Press ■/CHARGE.
"Charging" flashes, ▭ appears in the display, and charging starts.

Tip
During charging, other operations on the recorder are not possible.

Using on a nickel metal hydride rechargeable battery

See the illustration in the Japanese text (page 32).

Be sure the rechargeable battery is fully charged.

1 Insert the fully charged nickel metal hydride rechargeable battery with correct polarity.

Using on dry batteries

See the illustration in the Japanese text (page 32).

Use the battery case.

1 Attach the supplied battery case.
2 Insert the dry batteries with correct polarity.

Notes
- Do not use a new dry battery mixed with an used one. Do not mix different types of dry batteries.
- Stop operation before replacing the battery even when you are changing either of the two batteries.

Battery life

Batteries	Recording	Playback
NH-14WM nickel metal hydride rechargeable battery	Approx. 2.5 hours	Approx. 4 hours
R6(size AA) Sony alkaline dry batteries LR6(SG) ×2	Approx. 5 hours	Approx. 10 hours
NH-14WM +LR6(SG) ×2	Approx. 9.5 hours	Approx. 16 hours

When to replace the batteries

When the dry batteries or rechargeable battery are weak, flashing ▭ or "LOW BATT" appears in the display. Replace the dry batteries or charge the rechargeable battery.

Notes on dry batteries

Incorrect battery usage may lead to leakage of battery fluid or bursting batteries. To prevent such accidents, observe the following precautions :

- Insert the + and – poles of the batteries correctly.
- Do not install new and used batteries or different kinds of batteries together.
- Do not try to recharge the batteries.
- When the recorder is not be used for a long time, be sure to remove the batteries.
- If a battery leak should develop, carefully and thoroughly wipe away battery fluid from the battery compartment before inserting new ones.
- When replacing the dry batteries, replace both batteries with new ones.
- The recorder does operate with one dry battery but may not operate properly; always use two dry batteries.

►Additional information

Messages

If the recorder cannot carry out an operation, error messages may flash in the display window as follows.

BLANK DISC :
: You tried to play an MD with no recording on it.

DISC ERR :
: The recorder cannot read the MD (it is scratched or dirty). Reinsert the MD. If the same message still appears, replace the MD.

DISC FULL :
: There is no more space to record on the MD (less than 12 seconds available).

Data Save:
: The MD player is recording information (sounds) from the memory to the disk. Wait until this process is completed. Do not expose the player to any physical shock, nor disrupt power supply.

Toc Edit :
: The MD player is recording information (track start and end position) from the memory to the disk. Wait until this process is completed. Do not expose the player to physical shock, nor disrupt power supply.

BUSY :
: You tried to operate the recorder while it was accessing the recorded data. Wait until the message goes out (in rare cases, it may take about a minute).

NAME FULL :
: You tried to enter more than 200 letters to label a single track or disc.
You tried to enter a total of more than 1700 letters for track or disc names during playback or stop.
You tried to enter a total of more than 500 letters for track or disc names during a single recording.

Hi DC in :
: The power supply is higher than required. Use the recommended power sources.

HOLD :
: You tried to operate the recorder with the HOLD switch slid in the direction of the arrow. Slide back the switch.

LOW BATT :
: The rechargeable battery or dry batteries are weak. Charge the rechargeable battery or replace the dry batteries.

MEM OVER :
: You started recording when there is no indication in the display, with the recorder receiving continuous vibration. Put the recorder on the stable place and start recording again.

NO COPY :
: You tried to make a copy from a disc that is protected by the Serial Copy Management System. You cannot make copies from a digitally connected source which was itself recorded using the digital connection. Use the analog connection instead.

NO DISC :
: You tried to play or record with no disc in the recorder.

NO SIGNAL :
: The recorder could not detect digital input signals. Make sure that the source is connected firmly. If the message appears while recording, press ■ to end recording.

P/B ONLY :
: You tried to record or edit on a premastered MD (P/B means playback).

PROTECTED :
: You tried to record or edit on an MD with its tab in the record-protect position.

SORRY :
: You tried to erase a track mark while playing the MD or at the beginning of the first track.
You tried to erase a track mark to combine tracks the recorder cannot combine.[1)]
You tired to press DIGITAL MEGA BASS when the LINE OUT jack is plugged in.
You tried to press ■ or T MARK during synchro-recording.

TEMP OVER :
: Heat has built up in the recorder. Wait until the recorder cools down.

TR FULL:
: You tried to record more than 254 tracks.

TrPROTECT :

You tried to record over or edit a track which has been protected from being recorded over.[2)]

[1)] If you have recorded or erased many times on the same MD, the data of a single track may be scattered throughout the MD. When the data is scattered in groups of less than 12 seconds long, the recorder will not be able to combine the tracks.

[2)] Track-protected MiniDiscs — Some MD recorders will let you protect individual tracks from being recorded over. This recorder, however, does not offer this feature.

EDITING

You pressed a key on the recorder while editing on the remote control, or vice versa.